

聖書に親しむ

2018年 聖書週間 (11月18～25日)

テーマ：聖性への招き

2018.11.18

カトリック中央協議会

〒135-8585 東京都江東区潮見 2-10-10

TEL03-5632-4445 FAX03-5632-4465

郵便振替 00130-6-36546(宗)カトリック中央協議会一般会計口

巻頭言

聖性への小さな一歩

カトリック大阪大司教区補佐司教
パウロ 酒井 俊弘

あるときシスターに「プロ野球選手の名前を知っていますか?」と尋ねたら、「イチローと大谷選手ぐらいは知っています」という答えが返ってきました。ニュースに登場するほどの選手なら当然知っているわけです。大谷選手のすごさは、投手と野手の二刀流で、ベーブルースを超えようかという結果を残しているところにあり、特別な選手といえます。

ところで、「聖性を目指す」という目標は、特別な人たちだけのためではありません。「『あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい』(マタイ5・48) …信者は、おのおのがキリストから受けたたまものに応じてこの完徳を獲得するように努力し、キリストの足跡に従い、その姿に似たものとなり、万事において父のみ心を行いながら、神の栄光と隣人への奉仕に全精力を注がなければならない」(『教会憲章』40)。

「完全」と聞くと「自分には無理…」と考えるのは当然ですが、請われているのは「**努力し…全精力を注ぐ**」ことです。高い目標を持つということは、「夢を持つ」ことです。大谷選手は、「投手と野手の両方をする」という夢を持って日々の努力を続けたからこそ、今のような選手になったのです。

今年4月に教皇フランシスコが発表された現代における聖性をテーマにした使徒的勧告『喜びに喜べ——現代世界における聖性』には、私たちがどのように聖性への道を歩むべきかが具体的に示されています。

「主があなたを招かれているこの聖性は、小さな行動を通して成長します。たとえば—ある女性が買い物中に



近所の人と会い話出して、陰口になったとします。でもその人は心の中でいいます。『いけない。人のことを悪くいわないようにしないと。』これが聖性の一歩です。今度は家で子どもが、空想の話聞いてほしがると、とても疲れてはいたものの、傍らに座ってじっと優しく話を聞いてあげます。これもまた聖性をもたらすもう一つのもので、そして不安に押しつぶされそうとき、おとめマリアの愛を思っ てロザリオを手に取り、信頼を込めて祈ります。これもまた聖性のもう一つの道です。そして今度は通りに出て、貧しい人に気づくと、立ち止まって優しく話をする。これもまた別の一歩です。」(同勧告16)

教皇フランシスコは、イエス様自身の模範も示してくださっています。「小さなことにも心を配るようにと、イエスが弟子たちにどれほど促したかを覚えておきましょう。…明け方、弟子を待ちながら炭火を起こし、その上に魚を載せておくという、些細なこと」(同144)。これは、ヨハネ福音書に書かれている復活後のご出現の場面です。何度も読んだ箇所ですが、「そうか、あの炭火と焼いた魚はイエス様が手ずから弟子たちのために用意されたものなのだ」と初めて気づかされました。

聖書の中のイエス様のようになることが私たちの夢です。その夢の実現のために、聖書を読み、何ができるのかを黙想し、示されたことを実行に移しましょう。それこそが聖性への一歩だと信じて。

主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい。

マリア会司祭 青木 勲

今年のテーマ「聖性への招き」に合わせて選ばれた聖書の箇所は、「主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい」(フィリピ4・4)です。現代社会に励ましと預言者的回心を呼びかける素晴らしい言葉です。

励ましという意味は、今日の世相には政治・経済・国際関係、ひいては自然環境に至るまで不平不満をもらしたくなるような要素が多いからです。他方、預言者的回心への呼びかけは、「主において」という言葉が持つ特異性にあります。それは世がもたらす喜びや幸せに迎合せず、真実と正義に基づく預言者的挑戦と、そこから生じる霊的喜びに根ざしているからです。神の似姿として創られた人間に託された聖性への招きは、すべての値打ちをキリストのうちに還元する「主における喜び」のメッセージだといえるでしょう。

獄中書簡と呼ばれるフィリピ書は「喜びの書簡」とも呼ばれます。晩年のパウロは、信仰の遍歴を経て到達した霊的喜びの体験をフィリピの共同体と信徒に伝達しようとしています。イエスが世の罪を贖う「救い主」であり、復活したイエスこそがすべての人の「キリスト・主」(2・11)であると明示します。キリストのへりくだりの賛歌(2・6～9)と主を知る知識と、その価値の故に「わたしはすべてを失いましたが、それらを塵あくたと見なしている」(3・8)と言い、朽ちるものから朽ちないものへと昇華した喜びを聖霊の業として示しています。4章では、差し迫るキリストの再臨と自らの復活を願う信仰の喜びと希望のうちに、毎日生き抜くことを論じています。「主」が頭となる時、すべてが一新され、主における喜びが完成するからです。

「主において喜びなさい」について、ローマ書からも預言者的な示唆を受けることができます。「あなたがたはこの世に倣ってはなりません…」(ローマ12・2)と。経験から推察して、物を所有したり、勝負に勝ったり、立身出世することに幸せを感じま

す。しかし「～を持つ」「～に勝つ」「～になる」喜びを過大評価すると、他人を「物」に還元し、犯罪行為または反社会的行為に向かわせることとなります。残念なことに、大企業や有名大学までがその渦中にあります。この世の価値観を絶対視する誘惑の結果です。

神のみ旨の実現を第一義とする預言者的生き方、つまり世にあって、世のものではない生き方は、特別な人だけの特典なのでしょうか。教皇フランシスコは、聖性に向かう霊的回心は、すべての人に例外なく与えられていると強調しています。その理由は、神の似姿として創造された人間には存在の最初の瞬間から、神の聖性と神の生命の充満による喜びを享受するよう方向付けられているからです。人祖が罪を犯した結果、識別する能力は弱められましたが、神はご自分の愛の証しとして、独り子イエスを世に派遣し、十字架の死と復活を通して決定的な救済策を与えてくださいました。パウロは復活したキリストと出会うことによって目が開かれ、自己中心的な生き方から、キリストのために生命を捧げるまでの回心の恵みを受けました。「主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできない」(ローマ8・39)という信仰の喜びをパウロは披歴しています。これはパウロの慢心から出た言葉ではなく、すべて人を招く信仰告白です。

聖母マリアも神の前に小さな者であることを自覚しつつ、飢えている人、弱い人への優しさと気配りに徹しました。他方、傲りと権力志向者に向かっては、たくましい預言者の姿でマニフィカトの賛歌において警告しています。聖母マリアは正義と平和と喜びの国のために挺身する人々と共にいつもおられるのです。

みことばによって聖なる人に変えられる

大分教区司祭 山下 敦

さまざまな場所で聖書について話す機会をいただきますが、聖書に初めて触れられた方々の感想をよく伺います。「聖書は難しい」という意見はいつもあるものの、「面白い」、「興味をひかれた」などの好印象を持たれる人の方が多いようです。聖書は、キリスト教の信仰を持たない人にも、実に多様な形、方法で強い影響を与えています。毎年、世界で一番売れている本は聖書です。まさに、聖書が神のみことばだということでしょう。

どのように聖書を読めばいいのか、その学び方や研究方法は、聖書が旧約 46 書、新約 27 書を数える膨大なものであるがゆえ、さまざまです。聖書を読みたいと思っただけでは、それに困難さを感じている人や、アプローチの仕方ですべて迷っている方々のために、以下を提案したいと思います。

聖書全体の通読、つまり、旧約聖書の最初のページから読み進めていくことは、大きな意味があり、とてもよいことだと思いますが、難解な場所になると続かなくなってしまうものです。事実、特に旧約には難しい部分があります。ですから、好きな場所から読み始めていくのは実践的方法の一つです。

また、その重要性からいっても、福音書から読み始めるのが、聖書に少しでも触れようと思っている人がなさらざらよいことだと思います。一般的に旧約よりもわかりやすい新約の通読を、一度だけでは

なく、最後までたどり着いたらまた最初からやり直し、数回繰り返せば、新約聖書の全体像がつかめてきます。好きな言葉や疑問点などが明確になってきたところで、聖書解釈には絶対的に必要な旧約の方に入っていくとか、または、講座や研究会などに出席することも、この頃には大きな可能性の一つになっているはずです。

当たり前のことですが、とにかく読むということが大事です。聖書が本棚の飾り物になってしまわないように。

教皇フランシスコは新しい使徒的勧告において、すべての人を聖性に招いておられます。「多くの優れた救いの手段に恵まれているすべてのキリスト信者は、どのような生活条件と身分にあっても、各自自分の道において、父自身が完全にもっている聖性に達するよう主から招かれている」(『喜びに喜べ——現代世界における聖性』10、第二バチカン公会議『教会憲章』11 引用) のです。すべての人に影響を与えることのできる聖書は、そのための絶対的手段の一つです。わたしたち人間にとって真の喜びは、お金や物、または夢や理想の実現によって得られるのではなく、神が望まれる聖なる人になることによって完成されていきます。わたしたちがみな、みことばによって神の聖なる人に変えられていきますように。

教皇フランシスコ

あなたの洗礼の恵みを、聖性の歩みの上に実らせなさい。すべてを神に向けて開いておきなさい。そのために、ただひたすらに神を選びなさい。

使徒的勧告 喜びに喜べ

ADHORTATIO APOSTOLICA
GAUDETE ET EXSULTATE

最新刊



——現代世界における聖性

主からすべてのキリスト者へと向けられた、聖性への招きの考察。秘跡、犠牲、信心業といった、過去の多くの書で説かれる聖化の手段を反復するのではなく、一人ひとりが日常生活の中で、神と隣人への愛によって歩む聖性の道を説く。

四六判上製 144 ページ 定価 (本体 900 円 + 税)
ISBN978-4-87750-213-3

<https://www.cbcj.catholic.jp/> カトリック中央協議会

良書のすすめと読み方

①風の中「あなたはどこに？」と問う声 —味わう聖書— 池田 康文 著

2014年 女子パウロ会 1300円+税

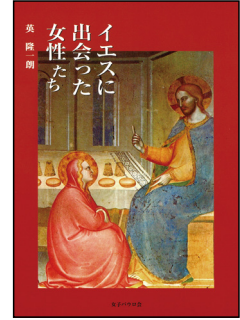
主にモーセ五書（特に創世記）から、重要なヘブライ語のことばを抜粋し、その意味を読み解く。ありありと目に浮かんで心に残りやすい表現が多く、意外と読みやすい。ことばにまつわる風土、文化、伝統や思想の説明も、原義の奥深さの理解を大いに助けている。旧約聖書だけでなく、福音書のメッセージの真意も受けとめてじっくり味わい、イエスの語りかけを实践したい方に薦めたい。



②イエスに出会った女性たち 英 隆一朗 著

2013年 女子パウロ会 1100円+税

差別に苦しみながら救いを求める女性たちは、愛深く自由な心のイエスと出会い人生が決定的に変わった。福音書中のそうした女性の信仰、心の動き、鍵となる態度や言葉の意味に本書はていねいに焦点を当てる。同時に、イエスの、大切にすること、与えたいもの、人に求めるものも浮き彫りにしている。イエスとどうかかわるかを、読者も問われていることに、やがて気づくだろう。



③子どもたちと読む聖書 百瀬 文晃 著

2015年 女子パウロ会 1100円+税

福音書の話聞いた子どもたちの予想外の質問や素朴な質問への、わかりやすい答えのヒントとなる本。降誕から復活まで20の物語のポイント、人物、背景をしっかりと把握できる解説、興味を引きながら子どもに語り聞かせるコツを掲載。子どもの素直で優れた感性は、信仰上の神秘理解、永遠の価値の最優先やイエスの言動にならっての具体的行動も、可能にすると、幼稚園長経験豊富な著者は説き励ます。



④目からウロコ 聖書の読み方 —レクチオ・ディヴィナ入門— 来住 英俊 著

2007年 女子パウロ会 750円+税

聖書を読むことがそのまま祈りになる方法の入門書。繰り返しゆっくりと初めてのように読むことは、案外むずかしい。そこをどう乗り越え、読むほどに喜びを増し、神と出会えるかを、実例をあげて具体的に手ほどきする。単純だが適度に知性も用いるレクチオ・ディヴィナが、古代から多くの人に愛され親しまれてきたことにも納得がいく。同シリーズに、本書を含め4点電子書籍版あり。



◆編集後記◆

今年のテーマは、最近のフランシスコ教皇の使徒的勧告を受けて「聖性への招き」とし、聖書のことばは「主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい」（フィリピ4・4）にいたしました。わたしたちが歩む道の導きとなる「聖性」への理解と気付きの一助となり、聖書にますます親しんでいただけましたら、望外の喜びです。ご執筆いただいた酒井俊弘司教様、青木 勲神父様、山下 敦神父様には素晴らしい文章をいただきありがとうございます。良書をご紹介くださった聖パウロ女子修道会様に感謝申し上げます。ポスターも、「生活のあらゆる場面での『聖性』」をイメージしました。ご活用ならびに配布いただきたく、今回初めて注文書を同封しましたので、ご利用ください。

◆献金のお願い◆

この「聖書に親しむ」は無料で配布しておりますが、諸経費を含め聖書に関する活動のためにご寄付いただければ幸いです。その際は、下記へご送金くださいますようお願い致します。

振込先： 郵便振替 00130-6-36546 (宗)カトリック中央協議会一般会計口